

国立国会図書館 書集芥の川々：2巻 207-164

ガラス使用

書集芥画川々

3-55

袖
袖
と
ち
大
二十人

207
164

明治七年

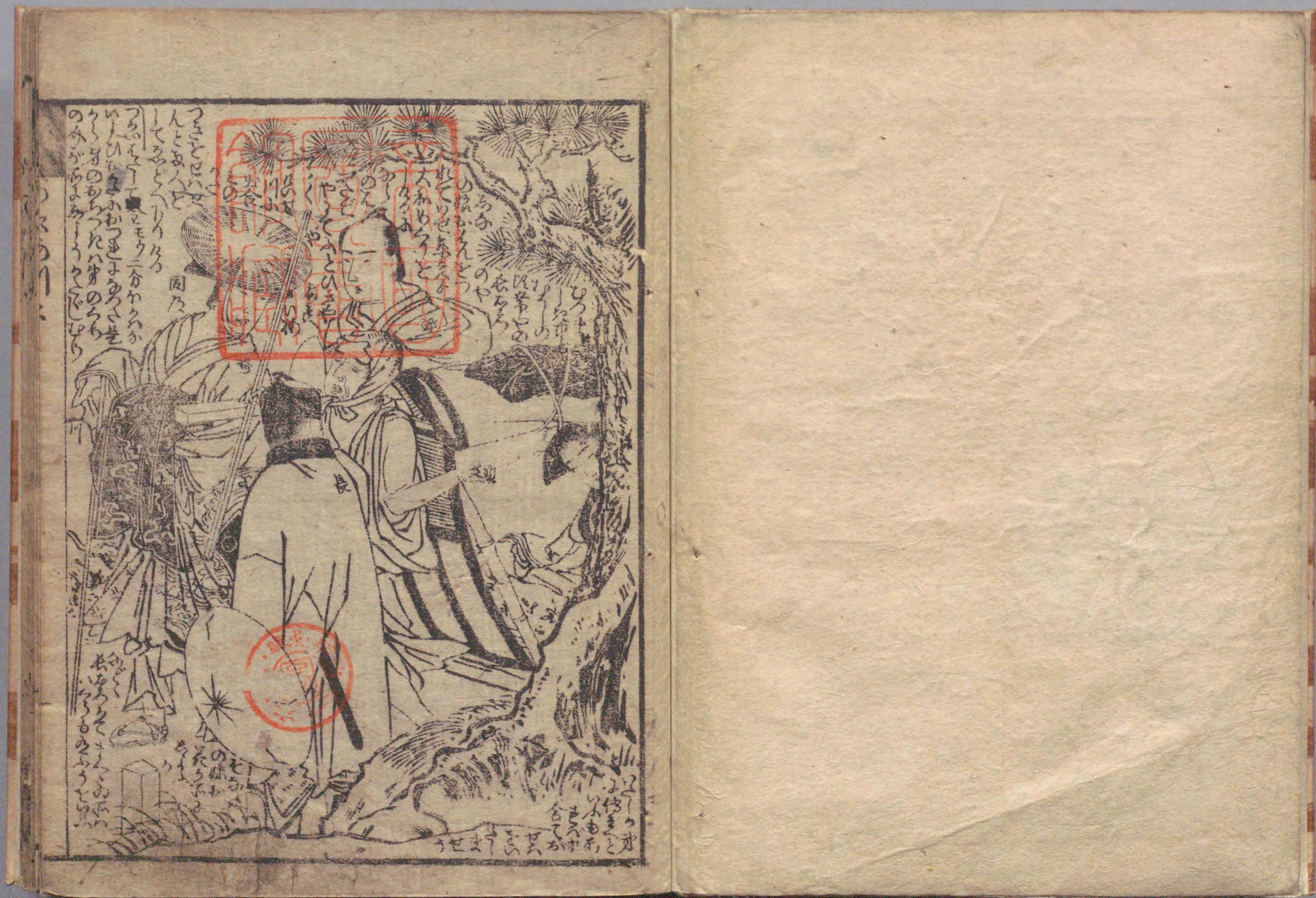
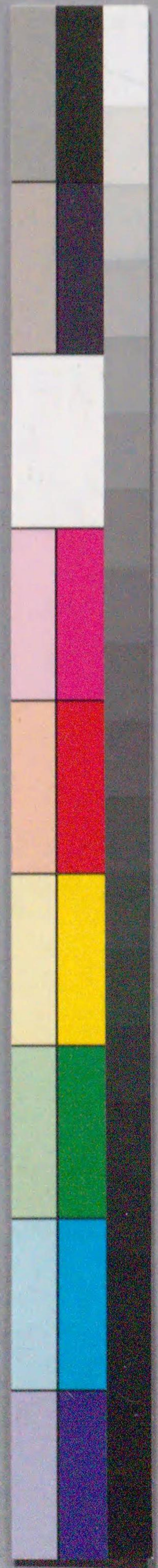
全二冊

葛屋板



芥子
道
画

26. 9. 28







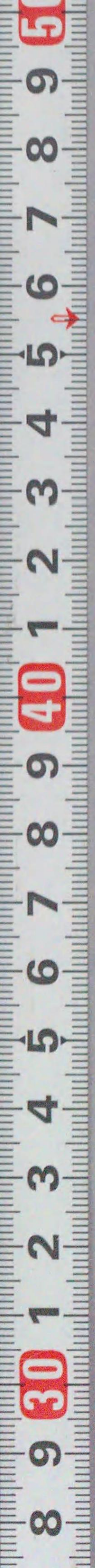


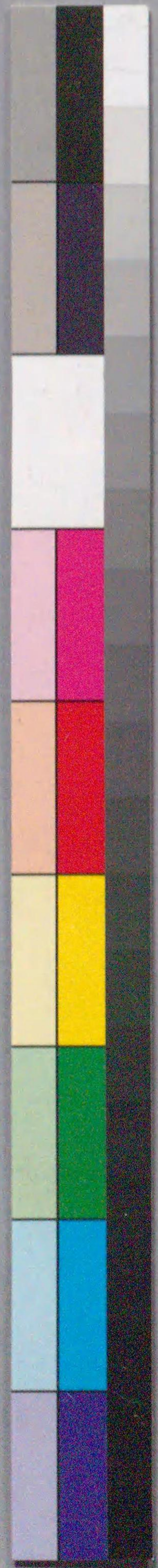


書並の事
 松の浜松の事
 母てたしやや一年
 云子出むと流さる
 のれ身もくろくま
 天候やまひを
 借さふおゆるく
 下あふ死なかな
 けすくき程
 づりてく
 七月の帯を
 みるすは
 美し
 後への
 ま
 り
 の



一人の
 ち
 の
 代
 と
 の
 の
 中
 の





道行比羽美の連

富永齋定大夫
富永豊前太夫
三強 各見崎徳治
上調子 同 典愠治

あはれとつれておぼ
こひのなごち
よなちせいのの
の腰海かすま
てんりの意のこ
の思のおせ
の礼の中もか
の愛かたけてま
小菊のあでりほの
名のほまれの
小糸のふさ香
をか柿柿川々
かこらるるま
かめらま
長ね小て
の指ぬ
まもふ
くははま
くははま



さしておちよと
八百屋より
の林さんよま
やんちんトあん
耐どとうど九
ままふかろ
むきうちつ
てめえりう
後のたこれ
うのゆか
はくめく
らにるん金のめ
てもあく
てお思ひ
いと
あんの
あり
のこれ
でも
あ
あ



あんの
あり
のこれ
でも
あ
あ

207
164



戯作 唐采泰和
道鷹画



207
164

国立国会図書館 書集芥の川々：2巻 207-164

ガラス使用

